

## 職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																									
鹿児島キャリアデザイン専門学校	昭和63年12月19日	東 祐二	〒891-0141 鹿児島市谷山中央二丁目4173番地 (電話) 099-267-2411																									
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																									
学校法人原田学園	昭和34年10月20日	原田 賢幸	〒891-0141 鹿児島市谷山中央二丁目4118番地 (電話) 099-268-3101																									
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																								
文化・教養	文化教養専門課程	TV映像音響科(映像コース)	平成30年文部科学省告示第32号	—																								
学科の目的 撮影技術や、舞台技術、企画・演出に必要とされる教育を現場に近い教育環境で行い、創造力・リーダーシップ・問題解決力に優れた、クリエイター業界にとどまらず、社会が必要とするエンターテイメント性を有する人材を育成する。																												
認定年月日 平成28年2月29日																												
修業年限	昼夜 総授業時数又は総単位数	講義 380	演習 1,210	実習 120																								
2 年	昼間 1,710			時間 0																								
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数																								
60人の内数	33人	0人	5人	8人																								
総教員数	13人																											
学期制度	■前期: 4月1日～9月30日 ■後期: 10月1日～3月31日	成績評価	<p>■成績表: 有</p> <p>■成績評価の基準・方法 学科目試験、出席状況、実習状況によって評価する。成績評価は各科目について100点満点をもつて表し、学年成績は5段階法(秀・優・良・可・不可)によるものとする。</p>																									
長期休み	■学年始: 4月1日～4月7日 ■夏 季: 7月17日～8月29日 ■冬 季: 12月18日～1月10日 ■学年末: 3月11日～3月31日	卒業・進級条件	<p>出席日数が、各学年の出席すべき日数の3分の2を超えており、教科の出席が時数の3分の2を超える、かつ教科の成績が不可(60点未満)でないこと。また、授業料等が完納していること。</p>																									
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 本人及び保護者への電話連絡ならびに面談指導、補習授業等	課外活動	<p>■課外活動の種類 学生会、ボランティア、サークル活動(大会出場)等</p> <p>■サークル活動: 有</p>																									
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和2年度卒業生) 番組制作会社、映像制作会社等  ■就職指導内容 担任による本人及び保護者への面談、面接指導、キャリアセンターによる就職指導、校内企業ガイダンスの実施等  ■卒業者数 19 人 ■就職希望者数 19 人 ■就職者数 16 人 ■就職率 84.2 %  ■卒業者に占める就職者の割合 : 84.2 %  ■その他 ・進学者数: 0人	主な学修成果(資格・検定等) ※3	<p>■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和2年度卒業生に関する令和3年5月1日時点の情報)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>マルチメディア検定</td> <td>③</td> <td>19人</td> <td>10人</td> </tr> <tr> <td>色彩検定 3級</td> <td>③</td> <td>1人</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>色彩検定 2級</td> <td>③</td> <td>1人</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>色彩検定 UC級</td> <td>③</td> <td>5人</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。  ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの  ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの  ③その他・民間検定等)</p> <p>■自由記述欄  ①学生主催無観客ライブ配信イベント「STAYGE」開催(年4回)  <a href="https://www.youtube.com/watch?v=H3e_qaydKok&amp;t=1293s">https://www.youtube.com/watch?v=H3e_qaydKok&amp;t=1293s</a>  ②鹿児島県高校野球予選大会ライブ配信、KKB生放送アシスタント  ③ライブイベント撮影実習(鹿児島県民交流センター)</p>		資格・検定名	種	受験者数	合格者数	マルチメディア検定	③	19人	10人	色彩検定 3級	③	1人	1人	色彩検定 2級	③	1人	1人	色彩検定 UC級	③	5人	4人				
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																									
マルチメディア検定	③	19人	10人																									
色彩検定 3級	③	1人	1人																									
色彩検定 2級	③	1人	1人																									
色彩検定 UC級	③	5人	4人																									
中途退学の現状	■中途退学者 2 名 令和2年4月1日時点において、在学者 38 名(令和2年4月1日入学者を含む) 令和3年3月31日時点において、在学者 36 名(令和3年3月31日卒業者を含む)  ■中途 進路変更・学校生活への不適合等  ■中退防止・中退者支援のための取組 担任による個人面談、保護者との連携、カウンセラーによるカウンセリング、家庭訪問、再入学等		<p>■中退率 5.3 %</p>																									
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度。 ・学納金免除制度(入試区分により5万～最大50万円免除) ・入学金免除制度(2/3免除・1/3免除) ・選考料半額免除制度  ■専門実践教育訓練給付: 給付対象(非給付対象) ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																											
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 有(無) ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																											
当該学科のホームページURL	<a href="URL:https://www.harada-gakuen.ac.jp/career/subject/tv/">URL:https://www.harada-gakuen.ac.jp/career/subject/tv/</a>																											

## (留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

## 2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをおいします。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聽講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯医学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他の経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職した者が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

## 3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

## 職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																					
鹿児島キャリアデザイン専門学校	昭和63年12月19日	東 祐二	〒891-0141 鹿児島市谷山中央二丁目4173番地 (電話) 099-267-2411																					
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																					
学校法人原田学園	昭和34年10月20日	原田 賢幸	〒891-0141 鹿児島市谷山中央二丁目4118番地 (電話) 099-268-3101																					
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																				
文化・教養	文化教養専門課程	TV映像音響科(舞台コース)	平成30年文部科学省告示第32号	—																				
学科の目的 撮影技術や、舞台技術、企画・演出に必要とされる教育を現場に近い教育環境で行い、創造力・リーダーシップ・問題解決力に優れた、クリエイター業界にとどまらず、社会が必要とするエンターテイメント性を有する人材を育成する。																								
認定年月日 平成28年2月29日																								
修業年限	昼夜 総授業時数又は総単位数	講義 270	演習 1,320	実習 120																				
2 年	昼間 1,710			実験 0																				
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数																				
60人の内数	29人	0人	5人	8人																				
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数																				
60人の内数	29人	0人	5人	8人																				
60人の内数	29人	0人	5人	13人																				
学期制度	■前期: 4月1日～9月30日 ■後期: 10月1日～3月31日	成績評価	<p>■成績表: 有</p> <p>■成績評価の基準・方法 学科目試験、出席状況、実習状況によって評価する。成績評価は各科目について100点満点をもつて表し、学年成績は5段階法(秀・優・良・可・不可)によるものとする。</p>																					
長期休み	■学年始: 4月1日～4月7日 ■夏 季: 7月17日～8月29日 ■冬 季: 12月18日～1月10日 ■学年末: 3月11日～3月31日	卒業・進級条件	<p>出席日数が、各学年の出席すべき日数の3分の2を超えており、教科の出席が時数の3分の2を超える、かつ教科の成績が不可(60点未満)でないこと。また、授業料等が完納していること。</p>																					
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 本人及び保護者への電話連絡ならびに面談指導、補習授業等	課外活動	<p>■課外活動の種類 学生会、ボランティア、サークル活動(大会出場)等</p> <p>■サークル活動: 有</p>																					
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和2年度卒業生) 舞台音響照明会社等  ■就職指導内容 担任による本人及び保護者への面談、面接指導、キャリアセンターによる就職指導、校内企業ガイダンスの実施等  ■卒業者数 11 人 ■就職希望者数 10 人 ■就職者数 8 人 ■就職率 80 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 72.7 %  ■その他 ・進学者数: 0人  (令和2年度卒業者に関する 令和3年5月1日 時点の情報)	主な学修成果(資格・検定等) ※3	<p>■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和2年度卒業者に関する令和3年5月1日時点の情報)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>マルチメディア検定</td> <td>③</td> <td>10人</td> <td>6人</td> </tr> <tr> <td>色彩検定 3級</td> <td>③</td> <td>2人</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>色彩検定 2級</td> <td>③</td> <td>1人</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>色彩検定 UC級</td> <td>③</td> <td>2人</td> <td>2人</td> </tr> </tbody> </table> <p>※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。    ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの    ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの    ③その他(民間検定等)</p> <p>■自由記述欄    ①学生主催無観客ライブ配信イベント「STAYGE」開催(年4回)  <a href="https://www.youtube.com/watch?v=H3e_qaydKok&amp;t=1293s">https://www.youtube.com/watch?v=H3e_qaydKok&amp;t=1293s</a>    ②鹿児島県高校野球予選大会ライブ配信、KKB生放送アシスタント    ③ライブイベント撮影実習(鹿児島県民交流センター)</p>		資格・検定名	種	受験者数	合格者数	マルチメディア検定	③	10人	6人	色彩検定 3級	③	2人	2人	色彩検定 2級	③	1人	1人	色彩検定 UC級	③	2人	2人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																					
マルチメディア検定	③	10人	6人																					
色彩検定 3級	③	2人	2人																					
色彩検定 2級	③	1人	1人																					
色彩検定 UC級	③	2人	2人																					
中途退学の現状	■中途退学者 0 名 令和2年4月1日時点において、在学者 23 名(令和2年4月1日入学者を含む) 令和3年3月31時点において、在学者 23 名(令和3年3月31日卒業者を含む)  ■中途進路変更・学校生活への不適合等  ■中退防止・中退者支援のための取組 担任による個人面談、保護者との連携、カウンセラーによるカウンセリング、家庭訪問、再入学等		<p>■中退率 0 %</p>																					
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等减免制度: ・学納金免除制度(入試区分により5万～最大50万円免除) ・入学金免除制度(2/3免除・1/3免除) ・選考料半額免除制度  ■専門実践教育訓練給付: 給付対象(非給付対象) ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載		<p>■民間の評価機関等から第三者評価: 有(無) ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)</p>																					
第三者による学校評価			<p><a href="URL:https://www.harada-gakuen.ac.jp/career/subject/tv/">URL:https://www.harada-gakuen.ac.jp/career/subject/tv/</a></p>																					
当該学科のホームページURL			<p><a href="URL:https://www.harada-gakuen.ac.jp/career/subject/tv/">URL:https://www.harada-gakuen.ac.jp/career/subject/tv/</a></p>																					

## (留意事項)

## 1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

## 2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業生に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」について  
①「就職率」については、就職する就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留学生」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究室及び夜間部、医学科、歯医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

## 3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

## 職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																									
鹿児島キャリアデザイン専門学校	昭和63年12月19日	東 祐二	〒891-0141 鹿児島市谷山中央二丁目4173番地 (電話) 099-267-2411																									
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																									
学校法人原田学園	昭和34年10月20日	原田 賢幸	〒891-0141 鹿児島市谷山中央二丁目4118番地 (電話) 099-268-3101																									
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																								
文化・教養	文化教養専門課程	TV映像音響科(レコーディングコース)	平成30年文部科学省告示第32号	—																								
学科の目的		撮影技術や、舞台技術、企画・演出に必要とされる教育を現場に近い教育環境で行い、創造力・リーダーシップ・問題解決力に優れた、クリエイター業界にとどまらず、社会が必要とするエンターテイメント性を有する人材を育成する。																										
認定年月日	平成28年2月29日																											
修業年限	昼夜 総授業時数又は総単位数	講義 270	演習 1,320	実習 120																								
2 年	昼間 1,710			時間 0																								
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数																								
60人の内数	3人	0人	5人	8人																								
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数																								
60人の内数	3人	0人	5人	8人																								
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数																								
60人の内数	3人	0人	5人	8人																								
学期制度	■前期: 4月1日～9月30日 ■後期: 10月1日～3月31日	成績評価	<p>■成績表: 有</p> <p>■成績評価の基準・方法</p> <p>学科目試験、出席状況、実習状況によって評価する。成績評価は各科目について100点満点をもつて表し、学年成績は5段階法(秀・優・良・可・不可)によるものとする。</p>																									
長期休み	■学年始: 4月1日～4月7日 ■夏 季: 7月17日～8月29日 ■冬 季: 12月18日～1月10日 ■学年末: 3月11日～3月31日	卒業・進級条件	<p>出席日数が、各学年の出席すべき日数の3分の2を超えており、教科の出席が時数の3分の2を超える、かつ教科の成績が不可(60点未満)でないこと。また、授業料等が完納していること。</p>																									
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 本人及び保護者への電話連絡ならびに面談指導、補習授業等	課外活動	<p>■課外活動の種類</p> <p>学生会、ボランティア、サークル活動(大会出場)等</p> <p>■サークル活動: 有</p>																									
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和2年度卒業生) 舞台音響照明会社等  ■就職指導内容 担任による本人及び保護者への面談、面接指導、キャリアセンターによる就職指導、校内企業ガイダンスの実施等  ■卒業者数 10 人 ■就職希望者数 10 人 ■就職者数 5 人 ■就職率 50 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 50 %  ■その他 ・進学者数: 0人  (令和 2 年度卒業者に関する 令和3年5月1日 時点の情報)	主な学修成果(資格・検定等) ※3	<p>■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和2年度卒業者に関する令和3年5月1日時点の情報)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>マルチメディア検定</td> <td>③</td> <td>9人</td> <td>6人</td> </tr> <tr> <td>色彩検定 UC級</td> <td>③</td> <td>2人</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。  ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの  ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの  ③その他(民間検定等)</p> <p>■自由記述欄  ①学生主催無観客ライブ配信イベント「STAYGE」開催(年4回)  <a href="https://www.youtube.com/watch?v=H3e_qaydKok&amp;t=1293s">https://www.youtube.com/watch?v=H3e_qaydKok&amp;t=1293s</a>  ②鹿児島県高校野球予選大会ライブ配信、KKB生放送アシスタント  ③ライブイベント撮影実習(鹿児島県民交流センター)</p>		資格・検定名	種	受験者数	合格者数	マルチメディア検定	③	9人	6人	色彩検定 UC級	③	2人	2人												
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																									
マルチメディア検定	③	9人	6人																									
色彩検定 UC級	③	2人	2人																									
中途退学の現状	■中途退学者 1 名 令和2年4月1日時点において、在学者 1 4 名(令和2年4月1日入学者を含む) 令和3年3月31時点において、在学者 1 3 名(令和3年3月31日卒業者を含む)  ■中途進路変更・学校生活への不適合等  ■中退防止・中退者支援のための取組 担任による個人面談、保護者との連携、カウンセラーによるカウンセリング、家庭訪問、再入学等																											
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等减免制度: 有 ・学納金免除制度(入試区分により5万～最大50万円免除) ・入学金免除制度(2/3免除・1/3免除) ・選考料半額免除制度  ■専門実践教育訓練給付: 給付対象(非給付対象) ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																											
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 有(無) ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																											
当該学科のホームページURL	<a href="URL:https://www.harada-gakuen.ac.jp/career/subject/tv/">URL:https://www.harada-gakuen.ac.jp/career/subject/tv/</a>																											

## (留意事項)

## 1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

## 2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業生に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査における就職率の定義について

①「就職率」については、就職する就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留学生」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究室及び夜間部、医学科、歯医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

## 3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1) 教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

企業や関係団体等と連携を図り、新たに必要となる実務に関する知識・技術・技能を授業科目や授業内容に反映し、学生に教授していく為、企業や関係団体等からの意見を十分に活かし、カリキュラムを見直し、改善を図る等の教育課程の編成を行う。

(2) 教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

(1) の基本方針に従い、教育課程編成委員会を設置し、各学科の教科構成について実務に必要とされる知識・技術・技能などが、該当する学科のカリキュラムに反映されているかを確認する。

教育課程編成委員会で指摘を受けた内容について、各学科にて分析・検討し、改善すべき項目を委員長である学校長に報告する。学校長が必要と判断した場合には、改善点を各学科の教育責任者に指示する。

(3) 教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和3年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
深尾 兼好	全日本CM協議会 鹿児島CM合同研究会 会長	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日(2年)	①
池田 勝三郎	ヴァージョン 代表	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日(2年)	③
木村 誠治	有限会社インパルス 取締役	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日(2年)	③
前田 大助	株式会社MBCサンステージ 取締役	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年)	③
東 祐二	鹿児島キャリアデザイン専門学校 校長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	
池田 秀俊	鹿児島キャリアデザイン専門学校 マルチ系科長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	
是枝 智美	鹿児島キャリアデザイン専門学校 マルチ系教員	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	
揚野 典明	鹿児島キャリアデザイン専門学校 マルチ系教員	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	
猪俣 翼	鹿児島キャリアデザイン専門学校 マルチ系教員	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	
平原 大志	鹿児島キャリアデザイン専門学校 マルチ系教員	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合には、種別の欄は空欄で構いません。)

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、

地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (7月、2月)

(開催日時(実績))

第1回 令和2年8月11日 15:00～17:00

第2回 令和3年2月16日 14:00～15:30

## (5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

①コロナ禍の影響もあり、遠隔授業の重要性を意識することとなった。そのため、数年後の入学生へは、一人一台のノートPC購入を検討している。

使用ソフト、ソフトの契約方法、PCのスペック、価格等、慎重に検討する必要がある。

②授業の殆どは「実技系」であり、複数人でのグループワークも多いため、全ての授業を遠隔授業で展開することは非常に難しい。ただし、実技系の授業であっても、知識や理論的な座学など、遠隔授業でも実施可能な部分を検討している。また、機材の取り扱いレクチャー動画の制作なども検討しており、テスト動画の制作を行っている。

③今後の授業展開として、そもそもの年間スケジュールに遠隔授業を視野に入れたカリキュラム制作が必要と考え、実施が出来ないか非常勤講師とも協議を重ねている。そのためにも、学校や、学生の自宅でのネット環境、実習用PCを整えていく必要がある。

## 2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

### (1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

実習、実技、演習等は専修学校の教育にとっては非常に重要なものであるため、常に最新の技術や技能を教授する必要がある。そのために本校と企業や関係団体等が密接に連携した体制を構築し、より実践的な職業教育の質の確保ができるよう組織的に取り組む。

また、連携を行う企業等とは協定書等を締結し、校内外で実施される実習・演習等について、指導内容やその学修成果の評価等も含めて、実践的な職業教育を行うものとする。

### (2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

#### (1)の基本方針に従い、次の項目について連携を行う。

- ①カリキュラムの作成
- ②実習・演習の計画及び実施
- ③成績評価及び進級判定等に関する助言
- ④その他の実習運営上に必要となる事項

### (3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
撮影技術(E)	映像業界で撮影技術者として活躍できる人材育成を目的とする科目である。撮影に必要なビデオカメラや、音声機器、照明機材などの業務用機材を学ぶ。TVCや、テレビ番組、イベント撮影など、幅広い撮影を授業やインターネットを通じて経験することにより、知識と技術の両面を習得する。	株式会社池田マジック
舞台技術(B)	「音響」という仕事を学び、舞台、イベント等に対応できる知識を身につける。また舞台知識も同様に学習し、劇場の基本的な構造と名称を覚えることにより舞台空間の音響知識も身に付ける。音の性質を学習し、機材を適正に使用できるように基礎知識を身に付ける。後期は野外イベント、学内イベントにて音響オペレート、ステージ転換、進行など様々な用途に対応できるように実習授業を行う。 公共ホールやライブハウスなどの演出の為に使用される舞台の応用的な知識と、技術を学ぶ。現場に合わせたプランニングからミキシングまで実践的な技術を習得する。	株式会社池田マジック
レコーディング実習(R)	レコーディングにおける基礎知識と技術を学ぶ。音響知識から機材の取り扱い、音の仕組みなどを理解して実践を通して学んでいく。 2年次は、レコーディング実習の内容をさらに追求して実践を積み、基本から応用まで作業できるようにする。最先端の技術も取り入れながら、自らの力で音楽制作を完成させていくことを目指す。	株式会社池田マジック

### 3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

#### (1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

教員等の研修に関する諸規程第2条のとおり、教員は業務経験や能力、担当する授業の分野に応じて、実務に関する知識、技術、技能の修得および学生に対する指導力等を修得するために、企業等と連携を図り、研修等を計画的に受講し、常に自己研鑽に努め、教育水準の向上を図る。

#### (2) 研修等の実績

##### ① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「舞台照明シミュレーション講座」(連携企業等:株式会社MBCサンステージ)

期間: 令和2年9月8日(火)~9月8日(水) 対象: 教員1名

内容: 日本照明家協会主催の、照明シミュレーションコンテストのためのソフト使用の講習

研修名「国家検定「舞台機器調整技能士」技能検定委員会」(連携企業等:「舞台機器調整技能士」技能検定委員会)

期間: 令和2年12月1日(火) 対象: 教員1名

内容: 令和2年度の舞台機器調整技能士検定の実施・運営に関する打合せ

##### ② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「教学Webセミナー2020 ~Withコロナ時代に求められる教育・指導体制とは~」

(連携企業等:株式会社 進研アド)

期間: 令和2年7月29日(水) 対象: 教員13名

内容: 第1部: データから見る専門学校生、第2部: 専門学校先進事例紹介 ~成功事例からヒントを学ぶ~

研修名「アフターコロナ時代のクラスデザインとファシリテータ」(連携企業等: CompTIA日本支局)

期間: 令和2年7月30日(木) 対象: 全教員

内容: 授業デザインの理論とコツ、ファシリテーションのコツ、オンラインでの学生の反応(良いもの、悪いもの)、リアルの使いどころ等

研修名「自ら気づき、学び続ける習慣」を身に付けるための新たな学び方」(連携企業等: CompTIA日本支局)

期間: 令和2年8月27日(木) 対象: 教員1名

内容: デジタルを活用したオンライン学習について

研修名:「リアル×オンラインの壁を限りなくゼロに 新たな教育の形を模索するための教室プロトタイプ

~ 未来の教室プロジェクト(連携企業等: 超教育協会事務局)

期間: 令和2年10月19日(月) 対象: 教員14名

内容: 静岡聖光学院中学校・高等学校における「リアルとオンラインのシームレスな教室空間」プロジェクトの取り組みを基にした、新しい日本の教育モデル作りについて

研修名「新型コロナウイルス感染症と感染対策」(連携企業等: 鹿児島大学病院感染制御部)

期間: 令和2年11月25日(水) 対象: 全教員

内容: 新型コロナウイルス感染症と感染対策について

研修名「授業目的公衆送信補償金制度のオンライン説明会」

(連携企業等: 文化庁著作権課、一般社団法人授業目的公衆送信補償金等管理協会(SARTRAS))

期間: 令和3年1月29日(水) 対象: 教員1名

内容: 授業目的公衆送信補償金制度の概要

### (3) 研修等の計画

#### ① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「オンラインセミナー 映像制作のトレンド～現代の映像コンテンツ制作とセンスのよい映像作りのコツ～」(連携企業等: デジタルハリウッド株式会社)

期間: 令和3年8月20日(金) 対象: 教員1名

内容: 映像制作のトレンドとプロのノウハウ・コツを伝授

研修名「オンラインセミナー 映画撮影現場のお仕事いろいろセミナー」(連携企業等: VIPO映画スタッフ育成事務局)

期間: 令和3年8月26日(木) 対象: 教員1名

内容: 映画の撮影現場にはどのような仕事があるの?～制作部、撮影部、照明部、録音部編～

研修名「一人5役～企画・撮影から編集・原稿まで～」(連携企業等: 一般社団法人NHK放送研修センター)

期間: 令和4年2月15日(火)～18日(金) 対象: 教員1名

内容: 企画、取材、撮影、編集そしてリポートなど手探りでやっている仕事をもう一度見直し、基礎から学ぶ

#### ② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「そもそも教育は何のため?」から考える「公教育の構造転換」(連携企業等: 超教育協会事務局)

期間: 令和3年7月20日(火) 対象: 教員3名

内容: 日々めまぐるしく変化する、教育をめぐる状況の中で、これからの中学校や教育はどうあればよいのか。そもそも、どんな教育が「よい」教育なのか。GIGAスクール構想について。

研修名「Microsoft Education が目指す児童生徒主体の学びと教育変革」(連携企業等: 超教育協会事務局)

期間: 令和3年7月28日(水) 対象: 教員3名

内容: マイクロソフトの最新教育プラットフォーム「microsoft 365 Education」について

研修名「メンタルヘルスの基礎知識」(連携企業等: メンタルヘルス鹿児島)

期間: 令和3年12月以降 対象: 全教員

内容: 学生のメンタルヘルスケアにおいて、教職員が知っておくべきこと

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

#### (1) 学校関係者評価の基本方針

教育活動その他の学校運営について、社会のニーズを踏まえた目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について自己評価を行うことにより、学校としての組織的・継続的な改善を図る。また、自己評価の結果に基づいて行う学校関係者評価の実施とその結果を公表することにより、適切に説明責任を果たすとともに、特色ある学校づくりを進めることにより、関連業界等のニーズを踏まえた質の高い職業教育を教授できるよう学校運営の改善と学校教育の発展を目指す。

#### (2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	①学校の理念・目的は定められているか ②社会のニーズ等を踏まえた学生の将来構想を抱いているか ③学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか ④各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか
(2) 学校運営	①学園の運営方針に沿った事業計画が策定されているか ②運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか ③人事、給与に関する規程等は整備されているか ④教育活動等に関する情報公開が適切になされているか ⑤情報システム化等による業務の効率化が図られているか

	①業界のニーズに沿った教育課程の編成を行っているか ②教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか ③学科等のシラバスは体系的に編成されているか ④キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか ⑤関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか ⑥関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか ⑦授業評価の実施・評価体制はあるか ⑧職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか ⑨成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか ⑩資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか ⑪関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか ⑫職員の能力開発のための研修等が行われているか
(3)教育活動	①就職率の向上が図られているか ②資格取得率の向上が図られているか ③就職先企業を訪問するなどして卒業生の実態を把握しているか
(4)学修成果	①進路・就職に関する支援体制は整備されているか ②学生相談に関する体制は整備されているか ③学生に対する経済的な支援体制は整備されているか ④課外活動に対する支援体制はあるか ⑤経済的支援制度利用についての情報提供を行っているか ⑥必要に応じて保護者との連携が図られているか ⑦卒業生への支援体制はあるか ⑧高等学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか
(5)学生支援	①施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか ②学内外の実習施設、インターンシップ等について十分な教育体制を整備しているか ③防災訓練を定期的に実施しているか
(6)教育環境	①学生募集活動は適正に行われているか ②学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか ③授業料等、徴収する金額はすべて明示しているか
(7)学生の受け入れ募集	①学校の收支のバランスは取れているか ②予算編成は教育目標・業務計画と整合性があるか ③財務について会計監査を適切に実施しているか ④財務の情報公開はされているか
(8)財務	①法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ②個人情報に關し、その保護のための対策がとられているか ③自己評価の実施と問題点の改善を行っているか ④自己評価結果を公開しているか
(9)法令等の遵守	①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか ②学生のボランティア活動を奨励、支援しているか ③地域に対する公開講座やイベント支援等を積極的に実施しているか
(10)社会貢献・地域貢献	①留学生の受け入れを行っているか ②留学生の受け入れ、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか ③留学生の学修・生活指導等が適切に行われているか
(11)国際交流	※(10)及び(11)については任意記載。

### (3)学校関係者評価結果の活用状況

(1) 持続可能な開発目標(SDGs)の達成に向け、「心の持ち方」を共に学ぶ学園の一翼を担う当校においても、「誰一人取り残さない」社会の実現を目指し、諸課題の解決へ向けてSDGsを理解し、自ら積極的に取り組むことのできる学生たちを育成していく。また、令和3年度中に学校及び学科毎の「3つのポリシー(ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシー)」を公表し、各学科の教育目標や育成人材像の明確化を図る。さらに、事業計画に基づき、PDCAサイクルを回し、①教育の質の向上、②社会に対する説明責任、③学校評価を通じたガバナンスの強化に向けた取り組みを継続していくとともに、常に社会全体や関連業界の動向に注視し、そのニーズに対応していくよう努める。(1.教育理念・目標)

(2) 変形労働時間制に対する職員の計画的な勤務時間の調整及び学科内での業務の分散等を円滑に進め、業務の効率化を推進していくとともに、新型コロナウイルス感染症対策については、学園行動指針に基づき、安全を第一に、継続的な感染予防対策を講じ、効果的な遠隔授業及びWebによる就職試験や進学相談等を推進し実施していく。(2.学校運営)

(3) 教育環境については、時代に即した授業形態や多様化への対応が求められていることから、GIGAスクール構想を意識した学校全体の通信及び実習環境の見直しを進めるとともに、Wi-Fiを全館で利用できるよう改修工事を行い、場面に応じて、より効果的に遠隔授業や対面授業を選択できるようなカリキュラムを構築していく。(6.教育環境)

(4) 学生の受け入れ・募集については、近年なく入学者数が増加したが、その要因は、コロナ禍による県外進学希望者が県内志向に転じての一時的な現象と思われる。今後、本県の少子化傾向は顕著であることから、「アフターコロナ」へ向けての学生募集については、本部企画広報部門との綿密な連携を図り、奨学制度や入試の在り方等、先進的な取り組みを実践していく。(7.学生の受け入れ募集)

(5) 少子化という時代の流れと同時に、学生の確保が財務基盤の安定に大きく影響すると考えられるが、今後、充足率の向上に向けて、組織的に取り組み、学園の長期ビジョンを踏まえて、当校の中・長期の事業計画に則った効率的な設備投資を行っていく。(8.財務)

### (4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和3年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
重山 茂仁	株式会社鹿児島頭脳センター IT事業部 第三課 課長	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日(2年)	卒業生
本田 正二郎	医療法人聖仁会 南薩ケアほすびたる 医事部責任者	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日(2年)	企業等委員
大橋 純一	社会福祉法人常盤会 法人本部 統括長	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日(2年)	企業等委員
徳 浩之	鹿児島ダイハツ販売株式会社 取締役 管理本部長	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生、校長等

### (5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ))

URL: <https://www.harada-gakuen.ac.jp/career/>

公表時期:令和3年8月31日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

#### (1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

情報提供の方法は、誰もが比較的容易にアクセスすることが可能な本校ホームページにて公表する。

また、企業や関係団体等の学校関係者に対しては、年度始めに学校関係者評価委員会を開催し、校長より当該年度の運営方針等を説明し、様々な教育活動の情報の公表を行った上で、実践的な職業教育のための更なる連携を深めるよう依頼を行う。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	①教育理念 ②学校の概要(連絡先等) ③学校の沿革 ④学則等
(2)各学科等の教育	①修業年限・定員 ②学科紹介・取得可能な資格 ③シラバス
(3)教職員	①組織図・教職員数
(4)キャリア教育・実践的職業教育	①就職支援 ②卒業後の進路(就職先一覧)
(5)様々な教育活動・教育環境	①学校行事 ②サークル紹介 ③施設紹介
(6)学生の生活支援	①学生寮紹介
(7)学生納付金・修学支援	①学生納付金(入学金・学費・併修費) ②奨学金・教育ローン ③各種免除制度
(8)学校の財務	①財務諸表等
(9)学校評価	①自己評価表 ②学校関係者評価
(10)国際連携の状況	①日本語科設置 ②アドバンス日本語科設置
(11)その他	①高等教育の修学支援制度における機関要件確認申請書 ②職業実践専門課程の基本情報について

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他( )  
URL: <https://www.harada-gakuen.ac.jp/career/>

## 授業科目等の概要

分類	(文化教養専門課程 T V 映像音響科 映像コース)											企業等との連携					
	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要			配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		場所		教員		
					講義	演習	実験・実習・実技				校内	校外	専任	兼任			
1	○			キャリアデザイン	学校生活上必要な書類作成や学校行事（学園祭やイベント大会等）におけるクラス内の話合いを行う「クラス運営」の時間にするとともに、科目「ビジネスマナー」の指導と連携しながら職業指導を中心に行い、スムーズな就職活動に繋げることを目的とする。 学生、担任、キャリアセンターとの連携・コミュニケーションを図る。			1 2 通	60	4	○			○	○		
2	○			一般教養	就職試験で実施される一般教養問題に備えて様々な分野の問題に取り組み、就職試験対策を行う。			1 2 通	60	4	○		○	○			
3	○			ビジネスマナー	社会人としての心構え、言葉遣い、電話対応等。正しい言葉遣いや電話対応などの基本的な知識や動作を学ぶ。教材をもとに基本を学習した後、応用へと発展させます。ロールプレイングを取り入れることで「解る」から「出来る」を目指し、2年次の就職活動に自信を持って取り組めるように学習する。			1 後 2 前	60	2	○	△		○		○	
4	○			検定対策	社団法人画像情報教育振興協会（CG-ARTS協会）主催の「マルチメディア検定3級」取得を目指し、現代社会におけるマルチメディア技術の知識を学ぶ。			1 2 通	60	4	○	△	○	○			
5	○			コンピュータ基礎	現代社会で必須アイテムとなりつつあるグループウェアの概要やメールのマナー等の情報リテラシーを学ぶ。更に、ビジネスソフト（Word, Excel, Power Point）の基本操作を修得し、実務で活用できるようになることを目標とする。			1 通	60	2	△		○	○	○		
6	○			CG基礎	Illustratorの基本的スキルを修得する。イメージした形や色や構成を楽しみながら、テキストアレンジから画像合成、フライヤー等の制作、さらにはメッセージボード制作も行う。			1 前	30	1	△		○	○	○		
7	○			企画・演出	フリーランスの映画・ドラマの制作部・演出部として様々な映像作品に参加。その後、テレビドラマ・映画の製作プロダクションに所属し、映像作品のラインプロデューサーを務める。			1 前	30	2	○	△	○	○			

8	○		撮影技術	映像業界で撮影技術者として活躍できる人材育成を目的とする科目である。撮影に必要なビデオカメラや、音声機器、照明機材などの業務用機材を学ぶ。TVCや、テレビ番組、イベント撮影など、幅広い撮影を授業やインターンシップを通して経験することにより、知識と技術の両面を習得する。	1 前	60	2	△	○	○	○	○
9	○		映像編集	映像編集・写真編集を行ううえでの、ソフト操作の基礎を学びながら、編集に必要な知識、技術を学ぶ。編集上の考え方などを、実習を通して学んでいく。	1 前	30	1	△	○	○	○	○
10	○		舞台技術	「音響」という仕事を学び、舞台、イベント等に対応できる知識を身につける。また舞台知識も同様に学習し、劇場の基本的な構造と名称を覚えることにより舞台空間の音響知識も身に付ける。音の性質を学習し、機材を適正に使用できるように基礎知識を身に付ける。後期は野外イベント、学内イベントにて音響オペレーター、ステージ転換、進行など様々な用途に対応できるよう実習授業を行う。	1 前	120	4	△	○	○	○	○
11	○		MA	1. TVやラジオ放送で使用する素材制作の為の基本的な知識を習得する。様々な機材の名前、使い方を覚える。 2. MAをする為のソフトProToolsの使い方を習得する。様々な音に興味を持ち、楽しみながら学べる環境をつくる。	1 前	30	1	△	○	○	○	○
12	○		DAW実習	音楽制作ソフトCubaseを使い、DAW（デジタルオーディオワークステーション）の基本的な操作、メロディー入力、リズム入力、コード入力などの音楽的編集やミックスまでを、与えられた課題を通して学んでいく。	1 前	30	1	△	○	○	○	○
13	○		レコーディング実習	レコーディングにおける基礎知識と技術を学ぶ。音響知識から機材の取扱い、音の仕組みなどを理解して実践を通して学んでいく。	1 前	30	1	△	○	○	○	○
14	○		撮影技術 (E)	映像業界で撮影技術者として活躍できる人材育成を目的とする科目である。撮影に必要なビデオカメラや、音声機器、照明機材などの業務用機材を学ぶ。TVCや、テレビ番組、イベント撮影など、幅広い撮影を授業やインターンシップを通して経験することにより、知識と技術の両面を習得する。	1 後 2 通	540	16	△	○	○	○	○
15	○		企画・演出 (E)	学生自ら短編映像作品（ドラマ・短編映画・TV番組・CM・MVなど）の企画から撮影演習、仕上げまで全行程を行うことで、基礎的なプロの仕事の難しさ・楽しさを体験し、理解を深める。	1 後 2 通	140	6	○	△	○	○	○
16	○		映像編集 (E)	企画・演出で制作を決めた作品に対して、より実践的な編集技術を学ぶ。企画・撮影の意図を汲み取り、目的に沿った編集における考え方を習得することを目指す。	1 後 2 通	250	7	○	△	○	○	○

17	○	MA	TVやラジオ放送で使用する素材制作の為の基本的な知識を習得し、MAをする為のソフトProToolsの使い方を習得する。 2年次は、音声機器を正しく扱うことができ、トラブルにも対応できる知識をつける。実際に音を収録し、OK・NGを判断して適正レベルで収録でき、さらに自分たちでMAを行って、現場で即戦力となれる人材を目指す。	1 後 2 通	90	3	△	○	○	○	○	
18	○	C G 基 础 (E)	Photoshopの基本的スキルを修得する。写真の加工や色補正、画像合成等の制作を行う。	1 後	30	1	△	○	○	○	○	
合計			18科目	1,710単位時間(62単位)								

卒業要件及び履修方法				授業期間等	
日数が、各学年の出席すべき日数の3分の2を超えており、教科の出席が時数の3分の2を超える、かつ教科の成績が不可（60点未満）でないこと。また、授業料等が完納していること。				1学年の学期区分	2期
				1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化教養専門課程 TV映像音響科 舞台コース)														
必修	分類		授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		場所		教員		企業等との連携
	選択必修	自由選択						講義	演習	校内	校外	専任	兼任	
1 ○			キャリアデザイン	学校生活上必要な書類作成や学校行事（学園祭やイベント大会等）におけるクラス内の話合いを行う「クラス運営」の時間にするとともに、科目「ビジネスマナー」の指導と連携しながら職業指導を中心に行い、スムーズな就職活動に繋げることを目的とする。 学生、担任、キャリアセンターとの連携・コミュニケーションを図る。	1 2 通	60	4	○		○		○		
2 ○			一般教養	就職試験で実施される一般教養問題に備えて様々な分野の問題に取り組み、就職試験対策を行う。	1 2 通	60	4	○		○		○		
3 ○			ビジネスマナー	社会人としての心構え、言葉遣い、電話対応等。正しい言葉遣いや電話対応などの基本的な知識や動作を学ぶ。教材をもとに基本を学習した後、応用へと発展させます。ロールプレイングを取り入れることで「解る」から「出来る」を目指し、2年次の就職活動に自信を持って取り組めるように学習する。	1 後 2 前	60	2	○	△	○			○	
4 ○			検定対策	社団法人画像情報教育振興協会（CG-ARTS協会）主催の「マルチメディア検定3級」取得を目指し、現代社会におけるマルチメディア技術の知識を学ぶ。	1 2 通	60	4	○	△	○		○		
5 ○			コンピュータ基礎	現代社会で必須アイテムとなりつつあるグループウェアの概要やメールのマナー等の情報リテラシーを学ぶ。更に、ビジネスソフト（Word, Excel, Power Point）の基本操作を修得し、実務で活用できるようになることを目標とする。	1 通	60	2	△		○	○	○		
6 ○			CG基礎	PhotoshopとIllustratorの基本的スキルを修得する。イメージした形や色や構成を楽しみながら、テキストアレンジから画像合成、フライヤー等の制作、さらにはメッセージボード制作も行う。	1 通	30	1	△		○	○		○	
7 ○			企画・演出	フリーランスの映画・ドラマの制作部・演出部として様々な映像作品に参加。その後、テレビドラマ・映画の製作プロダクションに所属し、映像作品のラインプロデューサーを務める。	1 前	30	2	○	△	○		○		
8 ○			撮影技術	映像業界で撮影技術者として活躍できる人材育成を目的とする科目である。撮影に必要なビデオカメラや、音声機器、照明機材などの業務用機材を学ぶ。TVCMや、テレビ番組、イベント撮影など、幅広い撮影を授業やインターンシップを通して経験することにより、知識と技術の両面を習得する。	1 前	60	2	△	○	○			○	

9	○		映像編集	映像編集・写真編集を行ううえでの、ソフト操作の基礎を学びながら、編集に必要な知識、技術を学ぶ。編集上の考え方などを、実習を通して学んでいく。	1 前	30	1	△	○	○	○	○
10	○		舞台技術	「音響」という仕事を学び、舞台、イベント等に対応できる知識を身につける。また舞台知識も同様に学習し、劇場の基本的な構造と名称を覚えることにより舞台空間の音響知識も身に付ける。音の性質を学習し、機材を適正に使用できるように基礎知識を身に付ける。後期は野外イベント、学内イベントにて音響オペレート、ステージ転換、進行など様々な用途に対応できるよう実習授業を行う。	1 前	120	4	△	○	○	○	○
11	○		MA	1. TVやラジオ放送で使用する素材制作の為の基本的な知識を習得する。様々な機材の名前、使い方を覚える。 2. MAをする為のソフトPro Toolsの使い方を習得する。様々な音に興味を持ち、楽しみながら学べる環境をつくる。	1 前	30	1	△	○	○	○	○
12	○		DAW実習	音楽制作ソフトCubaseを使い、DAW（デジタルオーディオワークステーション）の基本的な操作、メロディー入力、リズム入力、コード入力などの音楽的編集やミックスまでを、与えられた課題を通して学んでいく。	1 前	30	1	△	○	○	○	○
13	○		レコーディング実習	レコーディングにおける基礎知識と技術を学ぶ。音響知識から機材の取扱い、音の仕組みなどを理解して実践を通して学んでいく。	1 前	30	1	△	○	○	○	○
14	○		舞台技術(B)	「音響」という仕事を学び、舞台、イベント等に対応できる知識を身につける。また舞台知識も同様に学習し、劇場の基本的な構造と名称を覚えることにより舞台空間の音響知識も身に付ける。音の性質を学習し、機材を適正に使用できるように基礎知識を身に付ける。後期は野外イベント、学内イベントにて音響オペレート、ステージ転換、進行など様々な用途に対応できるよう実習授業を行う。 公共ホールやライブハウスなどの演出の為に使用される舞台の応用的な知識と、技術を学ぶ。現場に合わせたプランニングからミキシングまで実践的な技術を習得する。	1 後 2 通	570	17	△	○	○	○	○
15	○		レコーディング実習(B)	レコーディングにおける基礎知識と技術を学ぶ。音響知識から機材の取扱い、音の仕組みなどを理解して実践を通して学んでいく。 2年次は、レコーディング実習の内容をさらに追求して実践を積み、基本から応用まで作業できるようにする。最先端の技術を取り入れながら、自らの力で音楽制作を完成させていくことを目指す。	1 後 2 通	210	7	△	○	○	○	○
16	○		DAW実習(B)	音楽制作ソフトCubaseを使い、DAW（デジタルオーディオワークステーション）の基本的な操作、メロディー入力、リズム入力、コード入力などの音楽的編集やミックスまでを、与えられた課題を通して学んでいく。 2年次は、更に詳細な操作方法について学習し、目的に応じた簡単な音楽が制作できるようになることを目的とする。	1 後 2 通	180	6	△	○	○	○	○

17	○		MA	TVやラジオ放送で使用する素材制作の為の基本的な知識を習得し、MAをする為のソフトProToolsの使い方を習得する。 2年次は、音声機器を正しく扱うことができ、トラブルにも対応できる知識をつける。実際に音を収録し、OK・NGを判断して適正レベルで収録でき、さらに自分たちでMAを行って、現場で即戦力となれる人材を目指す。	1 後 2 通	90	3	△	○	○	○	○
合計				17科目	1,710単位時間(62単位)							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
日数が、各学年の出席すべき日数の3分の2を超えており、教科の出席が時数の3分の2を超える、かつ教科の成績が不可(60点未満)でないこと。また、授業料等が完納していること。		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化教養専門課程 TV映像音響科 レコーディングコース)														
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所	教員	企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技			
1	○			キャリアデザイン	学校生活上必要な書類作成や学校行事（学園祭やイベント大会等）におけるクラス内の話合いを行う「クラス運営」の時間にするとともに、科目「ビジネスマナー」の指導と連携しながら職業指導を中心に行い、スムーズな就職活動に繋げることを目的とする。 学生、担任、キャリアセンターとの連携・コミュニケーションを図る。	1 2 通	60	4	○			○	○	
2	○			一般教養	就職試験で実施される一般教養問題に備えて様々な分野の問題に取り組み、就職試験対策を行う。	1 2 通	60	4	○			○	○	
3	○			ビジネスマナー	社会人としての心構え、言葉遣い、電話対応等。正しい言葉遣いや電話対応などの基本的な知識や動作を学ぶ。教材をもとに基本を学習した後、応用へと発展させます。ロールプレイングを取り入れることで「解る」から「出来る」を目指し、2年次の就職活動に自信を持って取り組めるように学習する。	1 後 2 前	60	2	○	△		○	○	
4	○			検定対策	社団法人画像情報教育振興協会（CG-ARTS協会）主催の「マルチメディア検定3級」取得を目指し、現代社会におけるマルチメディア技術の知識を学ぶ。	1 2 通	60	4	○	△		○	○	
5	○			コンピュータ基礎	現代社会で必須アイテムとなりつつあるグループウェアの概要やメールのマナー等の情報リテラシーを学ぶ。更に、ビジネスソフト（Word, Excel, Power Point）の基本操作を修得し、実務で活用できるようになることを目標とする。	1 通	60	2	△		○	○	○	
6	○			CG基礎	PhotoshopとIllustratorの基本的スキルを修得する。イメージした形や色や構成を楽しみながら、テキストアレンジから画像合成、フライヤー等の制作、さらにはメッセージボード制作も行う。	1 通	30	1	△		○	○	○	
7	○			企画・演出	フリーランスの映画・ドラマの制作部・演出部として様々な映像作品に参加。その後、テレビドラマ・映画の製作プロダクションに所属し、映像作品のラインプロデューサーを務める。	1 前	30	2	○	△		○	○	
8	○			撮影技術	映像業界で撮影技術者として活躍できる人材育成を目的とする科目である。撮影に必要なビデオカメラや、音声機器、照明機材などの業務用機材を学ぶ。TVCや、テレビ番組、イベント撮影など、幅広い撮影を授業やインターンシップを通して経験することにより、知識と技術の両面を習得する。	1 前	60	2	△	○		○	○	

9	○		映像編集	映像編集・写真編集を行ううえでの、ソフト操作の基礎を学びながら、編集に必要な知識、技術を学ぶ。編集上の考え方などを、実習を通して学んでいく。	1 前	30	1	△	○	○	○	○
10	○		舞台技術	「音響」という仕事を学び、舞台、イベント等に対応できる知識を身につける。また舞台知識も同様に学習し、劇場の基本的な構造と名称を覚えることにより舞台空間の音響知識も身に付ける。音の性質を学習し、機材を適正に使用できるように基礎知識を身に付ける。後期は野外イベント、学内イベントにて音響オペレート、ステージ転換、進行など様々な用途に対応できるよう実習授業を行う。	1 前	120	4	△	○	○	○	○
11	○		MA	1. TVやラジオ放送で使用する素材制作の為の基本的な知識を習得する。様々な機材の名前、使い方を覚える。 2. MAをする為のソフトProToolsの使い方を習得する。様々な音に興味を持ち、楽しみながら学べる環境をつくる。	1 前	30	1	△	○	○	○	○
12	○		DAW実習	音楽制作ソフトCubaseを使い、DAW(デジタルオーディオワークステーション)の基本的な操作、メロディー入力、リズム入力、コード入力などの音楽的編集やミックスまでを、与えられた課題を通して学んでいく。	1 前	30	1	△	○	○	○	○
13	○		レコーディング実習	レコーディングにおける基礎知識と技術を学ぶ。音響知識から機材の取扱い、音の仕組みなどを理解して実践を通して学んでいく。	1 前	30	1	△	○	○	○	○
14	○		レコーディング実習(R)	レコーディングにおける基礎知識と技術を学ぶ。音響知識から機材の取扱い、音の仕組みなどを理解して実践を通して学んでいく。 2年次は、レコーディング実習の内容をさらに追求して実践を積み、基本から応用まで作業できるようにする。最先端の技術を取り入れながら、自らの力で音楽制作を完成させていくことを目指す。	1 後 2 通	570	17	△	○	○	○	○
15	○		DAW実習(R)	音楽制作ソフトCubaseを使い、DAW(デジタルオーディオワークステーション)の基本的な操作、メロディー入力、リズム入力、コード入力などの音楽的編集やミックスまでを、与えられた課題を通して学んでいく。2年次は、更に詳細な操作方法について学習し、目的に応じた簡単な音楽が制作できるようになることを目的とする。	1 後 2 通	390	13	△	○	○	○	○
16	○		MA	TVやラジオ放送で使用する素材制作の為の基本的な知識を習得し、MAをする為のソフトProToolsの使い方を習得する。 2年次は、音声機器を正しく扱うことができ、トラブルにも対応できる知識をつける。実際に音を収録し、OK・NGを判断して適正レベルで収録でき、さらに自分たちでMAを行って、現場で即戦力となれる人材を目指す。	1 後 2 通	90	3	△	○	○	○	○
合計				16科目	1,710単位時間(62単位)							

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間
日数が、各学年の出席すべき日数の3分の2を超えており、教科の出席が時数の3分の2を超える、かつ教科の成績が不可(60点未満)でないこと。また、授業料等が完納していること。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。